

松阪市議会
西村議長様

平成28年11月7日
報告者 松阪市議会
前川幸敏

視察報告

今回、下記のとおり行政視察を実施いたしましたのでその内容を報告します。

記

- 1、視察の日程 平成28年10月25日～10月27日
- 2、視察先・視察項目・視察時間
 - 10月25日 善通寺市
包括的施設リース契約による大規模太陽光発電事業について
13時30分～ 1時間30分程度
 - 10月26日 松山市役所
都市ブランド推進事業について
10時00分～ 1時間30分程度
 - 10月27日 四国中央市役所
四国中央市子育て支援ユビキタススクール推進事業について
13時30分～ 1時間30分程度
- 3、視察報告者 前川幸敏
- 4、視察内容 要点のみ記載

視察内容

包括的施設リース契約による大規模太陽光発電事業について

担当者 市民生活部 環境課 課長・大川様

荒木様

善通寺市におけるメガソーラー事業について



(事業の経緯)

国の再生可能エネルギー固定価格買取制度が平成24年7月から始まることを受け、善通寺市においても遊休市有地の活用としてメガソーラーの導入ができないかとの検討を開始した。

当初は、市の直営事業又は民間業者への土地の賃貸しによる事業を検討していたが、包括的施設リース契約による太陽光発電事業を実施している自治体があることを知り視察等調査を行い、この方式での導入を決定をした。

(事業実績)

27年度・歳入

売電額	10540万円
その他	36万円
合計	10576万円

歳出

リース料	7897万円
その他	208万円
差引売電収益金	2471万円
基金積立金	2191万円

28年度・歳入

売電額	11896万円
その他	4万円
合計	11900万円

歳出

リース料	8779万円
その他	372万円
歳出計	9151万円

差引売電収益金 2749万円

市民への還元

売電収益を基金に積立し、それを原資として、本年度、市内の防犯灯等LED照明導入事業における交換工事及び10年間の維持管理業務を含めたリース契約をリース会社と締結するところである。

(内訳)防犯灯約1000基、道路照明灯約600基

[所感]

善通寺市は、全国に先駆けた取組により環境のまちとして積極的に推進されているのが太陽光発電事業です。

東日本大震災以降、資源の枯渇のおそれが少なく環境への負荷が少ない再生可能エネルギーが注目するなか普及促進を積極的に後押しされています。

遊休市有地を利用され、地球規模で取り組まなければならないCO2排出量の削減による地球温暖化対策の推進にも積極的に考えていられます。

2ヶ所の発電所から得られる売電収益をすべての市民の方々に還元をされています。

メリット、デメリットは多少はあると思いますが、遊休市有地を利用されての市民全員が喜んでみえるのは、これぞ市民の為の政治の判断とつくづく知らされました。

お隣の、明和町さんも遊休地を利用されてメガソーラー事業者に土地を貸されていると聞いております。

松阪市も、遊休地はあると思いますが有効利用を積極的に考えたらと、この視察を終えて反省の気持ちを持ちました。

都市ブランド推進事業について



都市ブランドが求められる背景

人口減少時代の到来や地方分権の進展により地域間競争が激化するなか松山市は「選ばれる都市」となるためには都市全体の価値や実力の向上と共に都市そのものに対する信頼や好感を市内外から獲得しなければならないとの思いから始まったとの事です。

現状分析

2人に1人は、松山市と言われてもイメージが湧かない。

例えば、別府市・30位 金沢市・34位 松山市・158位

認知度・79位 魅力度・94位 情報接触度・156位となっていて他都市に大きく差をつけられている。

若年層～40代の情報接触度が低い

選ばれる都市となるため都市ブランド戦略の推進

都市そのものの相対的な価値をあげる

行ってみたい・買ってみたい・住んでみたいなどの意識や行動が活況づき、個別事業にも貢献される。

松山市における都市ブランド確率の目標は全国の人々が選ばれる都市を実現する事であり、まちづくりの推進と併せて、都市イメージと認知度を高めるための取組を総合的、戦略的に推進をしていく事であります。

基本方針として「都市イメージの明確化」「戦略的な情報発信」「市民の愛着や誇りの向上」を挙げこの方針に添って方策の計画・推進する事で目標の実現を図る。

都市イメージの明確化—松山市の都市イメージが全国へ伝わっていないので、イメージを明らかにしてイメージのみえる化を進めていく。

情報発信—ターゲットや発信する内容を組合せて発信する。

市民の愛着や誇りの向上—市民自らが地域に愛着を持って、誇りとして全国へ発信する。

松山市の魅力をカタチにする。

だんだん松山市プロジェクトー松山市の素晴らしさが全国で十分に知られていない都市そのものの価値や魅力を高めていくための活動を始める。松山市の良さを見つめ直し磨き全国へ発信していく。

松山市の真の魅力は何か。一徹的に掘り下げる。

多くの人々を巻き込んでプロセスそのものを視覚化する。

検討会議・市民ワークショップ・首都圏ふるさとミーティング・市民意見募集等々

市民参加のもと、松山市の基本価値の設定

松山市らしい温かい暮らし。調和のとれた暮らしやすさ。全部載せ、最高ではないがすべてが揃っている。ゆっくりした暮らしと人のあたたかさ。

ブランドメッセージを開発ーちょうどいい感じのあたたかい人々とちょうどいい頃合い好きな暮らしが自然と創れ自分らしく生きられ都市。

ロゴマークの投票をきっかけに市民への浸透を図る

様々な媒体を活用して投票を呼びかけると55236票の投票結果で「いい加減・まつやま」に決定ー田舎のおだやかさもあれば、都会の便利さもある。

文化や歴史の楽しみもあれば海や島の楽しみもある。あったかい温泉もあれば、あったかい人間味もある。松山市は何かひとつだけがスゴイのではなく、いろんな良さが絶妙に程よく混ざり合うまちである。気の向くままにいろいろ楽しみ、味わい、暮らせるまちです。

主婦が幸せに暮らせる街ランキングでは全国5位

メッセージが決定。さて、どうしますか。

メッセージとロゴマークだけでは世界感が伝わらないー認知の低い若い世代に響く伝え方。先行の他都市のPR戦略との差別化。世界に向けて発信。

【所感】

松山市では、地域間競争が激化(市町村対市町村・県対県・四国対本州)する中、人々から選ばれる都市となるために、松山市の地区の価値や、その地区のいろんな実力の向上や、その地区の信頼・好感を市内外から集めて暮らしやすさを追求されて定住促進に取り組んでいられる。

定住促進のガイドブックでは、地区別マップはもとより若者用とシニア用に分けて町の魅力を案内されている。

ガイドブックでは、分かりやすく特にシニア用では文字は大きく書かれており、誰もが最後まで読んでもらえるように配慮されている。

いい、暮らし。まつやまは、この街に移住した人たちのリアルな声を伝える移住応援ガイドであり最後まで読みたくなる一冊だと思います。

その中で取り上げられていることで、数字でわかる松山市暮らしやすさ。通勤通学時間の短さが日本一。余裕時間の長さが日本一。賃貸し住宅の安さが日本一。地域の食材が手に入りやすい日本一。病院や診療所までの近さが日本一。と生活に密着した項目をと分かりやすく最重要としては取り上げられている。

相談も、移住相談窓口・移住フェア出展、体験も婚活ツアー・暮らし体感ツアー・など先進的にされている。

若者向けには、松山市の暮らしやすさデータが語るとの冊子で、漫画をとうして住み良さを全面に出されて呼びかけをされている。

特に、暮らしやすさを、松山市と東京との比較表(家計簿チェック)を作られて、家族の収入家族の支出を比較をして、松山市に住んだ方が、月にこれぐらいのゆとりができると人目で分かるように書かれているのは大変勉強になりました。

松阪市も、近隣町村と協定を結んで定住促進に力を入れて見えますが、この件は、あくまでも地域間競争であることを忘れたらいけません。

人口減少は、ストップは難しいとは思いますが、上を向いていく施策を考えながら競争に勝っていく事も重要ではと感じました。

子育て支援ユビキタススクール推進事業について

四国中央市総務部情報政策課 合田英幸様

富原英友様



総務省モデル事業からユビキスタウン構想推進事業は「地域児童見守りシステム」としてモデル事業(モデル校6校の低学年1年生～3年生・児童560人を対象に運用)

◇システム設計時の運用課題

- ICカードを忘れて登校してきた児童への対策
- ICカードリーダーへのかざし忘れ・ミス
- ICカードへのいたずら・遊び感覚での複数回のタッチ

◇運用課題の対策

- ICカードリーダーは、基本的に小学校の玄関に集中的に設置
- 小学校の普通教室へLAN配線及び管理用パソコンの配置
- ICカードを忘れてきた児童・かざし忘れた児童の保護者へ担任教師がパソコンから手動で確認メールの送信
- ICカードの情報を1回目に読み込んだ時間から2時間以内であれば児童のいたずらと判断しメールは送信されない仕組みとする。

◇結果からえられた運用課題

- 担任教師の負担増大
- 登校時のかざし忘れの児童に対して担任教師がパソコン上から登校処理を実施しない場合、下校時のカードタッチが下校と判断
- システム障害、ネットワーク障害発生時の保護者への障害発生通知手段

放課後子ども教室管理システムの概要

下校時一下駄箱付近に設置されたカードリーダーにICカードをかざします
放課後児童クラブ(放課後子ども教室)利用児童は、放課後教室入退室時に教室内に設置されたカードリーダーにICカードをかざします。
登下校時間に加え放課後児童クラブ等の入室時間・退室時間についてもメールを発信します。

保護者連絡網システムの概要

保護者と学校とのコミュニティーを支援します
凶悪事件発生時や災害発生時にも緊急連絡が可能です

市内全19校・児童4900人へ運用の拡大

担任教師にもICカードを付与
担任教師用ICカードでかざし忘れ児童等の登校・下校処理を一括処理
パソコンから手動による確認メール送信機能についても機能改善により処理の効率化を図る。

IC カードリーダーは基本的に教室の入り口付近もしくは教室内に設置
保護者いっさいメール配信機能の導入
正午以降のカードタッチは一回目でも下校と判断

ユビキタススクール事業の結果から得られた課題

高学年を対象に行っている季節的な課外授業がある場合下校時には担任教師用 IC カード
による一括処理ができない

小学校のプールへもカードリーダーライタを設置してほしい

特別支援学級児童システム上の所属

[所感]

子供達の学校への登校・下校の見守りとして、総務省モデル事業・地域児童見守りシステム
を視察をさせていただき子供達の安全安心について不安を感じられて保護者のためにと、
1日の目の届かない登下校や放課後において子供達を見守る、このシステムは重要ではと
感じました。

メリット、デメリットはありますが、通知をしてくる子供達をメールにより正確な登下校
時間を把握する事ができ途中までのお迎えや下校時間にあわせた帰宅ができるという事
です。

いつもの時間に帰宅しなかった場合いち早く異常に気づく事ができるのです。

もしもの時や災害発生時でも迅速な初動対応ができるという事です。

デメリットも多々あるが、カードリーダーのかざし忘れや操作ミスでメールが届かなかっ
た時、毎日定時にメールが届く事に慣れてしまっ、かえって不安になるとのご意見も
あるとの説明を受け、このシステムも100%ではないんだと感じましたが、

毎日、通学路に立って頂いている地元の方々の子供達に対する暖かい行動に頭の

下がる思いも感じながら、地元のボランティアの方々の行為を少しでも、和らげる為にも
このシステムは松阪市に必要ではと思います。

以上